

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
164	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
<p>Longitudinal examination of alcohol use: a predictor of risky sexual behavior and Trichomonas vaginalis among African-American female adolescents.</p> <p>アルコール使用の経時的検討：アフリカ系アメリカ人思春期女性における危険な性行動とトリコモナス</p>	
執筆者	
Seth P, Sales JM, DiClemente RJ, Wingood GM, Rose E, Patel SN.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Sex Transm Dis. 2011 Feb;38(2):96-101.	
キーワード	
危険な性行動、アフリカ系アメリカ人、思春期、トリコトモナス	
<p><b>要 旨</b></p> <p><b>背景：</b></p> <p>思春期の若者の間では、アルコール使用が危険な性行為と関連している。しかしながらアフリカ系アメリカ人の思春期の女性を対象としたアルコール使用と危険な性行動に関する研究は限られている。本研究では、高いアルコール摂取量が危険な性行動や性感染症(STDs)の長期的な予測因子であることを、性感染症の高リスク集団であるアフリカ系アメリカ人の思春期女性で検討した。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>393人の思春期女性(15-21歳)を対象に社会人口学的因子、アルコール使用および危険な性行動を評価した。また参加者からは性感染症を同定するために2つのスワブ検体が提供された。高飲酒量については1回あたり3杯以上と定義した。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>12ヵ月間の危険な性行動と性感染症に対するベースライン時のアルコール使用の影響を評価するために、二値応答の一般化推定方程式モデルを実施した。年齢、介入群およびベースラインの結果変数は共変量として投入された。結果として、アルコールをたくさん飲むことが12か月の追跡期間における、陽性のTVテスト結果、一貫しないコンドーム使用、高い性的感覚を求める行動、多くのセックスパートナー、アルコールかドラッグでハイになったときのセックス、肛門性交を予測することがわかった。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>これらの知見は、アフリカ系アメリカ人の思春期におけるHIV/STDに関わる行動介入を語る際に、アルコールとHIV/STDリスク行動との関連について議論すべきであることを示唆している。個人と地域社会レベルでの効果的な予防プログラムの開発には、これらに対する深い理解が重要である。</p>	